「鈴鹿市の戦争遺跡を保存・平和利用する市民の会」会報
2023年6月20日　　第40号

市文化財指定第一号の実現を
白子地区の複合施設構想に平和資料館も
第１５回総会開く

「鈴鹿市の戦争遺跡を保存・平和利用する市民の会」の第 15 回総会は５月 21 日、ジェフリーすずかで開きました。　① 市内にある戦争遺跡のいずれかを市の文化財に指定する ② 市が白子地区に構想している公共施設に平和資料館を組み込んでもらう、ことに全力を挙げて取り組む方針を決めました。

市内に残る戦争遺跡のうち鈴鹿海軍航空隊の番兵塔は桜の森公園内に、鈴鹿海軍工廠の正門の銘板は鈴鹿市大池３丁目の公園内にあります。どちらも民有地でなく公有地にあることで、文化財指定を受けやすいのではないかと考えます。市文化財として残す価値ある施設であることを訴え、ぜひ実現させたいと思います。

番兵塔と平和のモニュメント

鈴鹿海軍工廠　銘板

公共施設構想は、鈴鹿市白江土地区画整理組合が白子駅北西約１キロのところに整備した約 25.7 ヘクタールの中央部。集合保留地として確保した約２万平方メートルを市が買収し、ここに施設を造るものです。同組合は「他地区から人が集まり、人が常時集い賑わう施設の整備、すなわち市民ホール、ギャラリー及び高齢者等を対象とした福祉機能を備えた複合施設の整備により、芸術・文化に富んだ複合的な地域づくりを」と市に要望しています。市は健康福祉部が主幹部となって昨年度から構想立案に着手しました。「市民の会」はこの構想の中に平和資料館を入れてもらう折衝を始めており、今年度も真摯に粘り強く要望を重ねていきたいと思います。

鈴鹿を調べて被爆地・長崎へ
小河さん親子が総会で講演
現地へ行って初めて知る戦争の恐ろしさ

「市民の会」総会の記念講演は、鈴鹿市の戦争遺跡をくまなく歩いたあと親子記者として長崎で平和式典や被爆者を取材した 小河 正樹 さん（自営業）、加奈 さん（鈴鹿市立飯野小学校６年）親子が「鈴鹿市の戦争遺跡、そして長崎」と題してその体験を話してくれました。「現地を見て初めて戦争のおそろしさを知ることができました」と、切々に語られました。

まず鈴鹿から

長崎を舞台にした「親子記者事業」の記者に抽選で選ばれた。現地に行く前に出された課題が地元の戦争についての調査。鈴鹿市役所に問い合わせたら「市民の会」を教えられ、鈴鹿市内の戦争遺跡を案内してもらった。鈴鹿川をはさんで南側にあった海軍関係を１日かけて、北側にあった陸軍関係をもう１日かけて、回った。鈴鹿に住みながら、それまではサーキットとお茶どころくらいしか知らなかった。軍都だったとは。

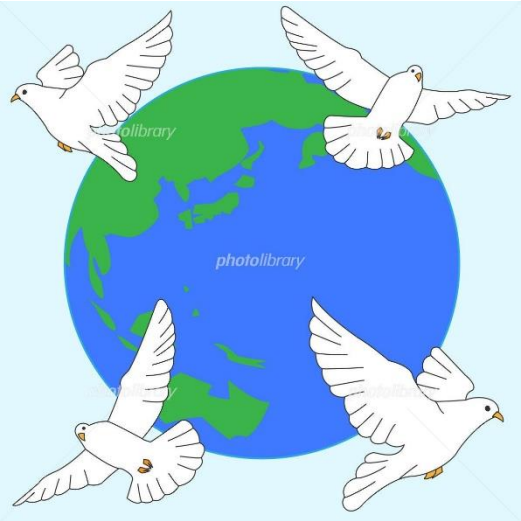
長崎とアウシュビッツ

８月８日から 11 日まで長崎へ。最初に取材したのは、長崎純心大学３回生の 江口 凛さんと 中島 彩華 さん。学生たちでつくる団体が毎年８月９日、ドイツのフライブルグ大学とオンラインでつなぎ、原爆とホロコーストの犠牲者に平和を祈るとともに意見交換する活動を続けている。８月９日はユダヤ系ドイツ人修道女、エディット・シュタインが 1942 年にアウシュビッツのガス室で殺された日と同じ。一度に多くの人がなくなる戦争は早く無くなってほしい、と思った。

奇跡の生き残り

三菱兵器製作所大橋工場で働いていた 早崎 猪之助 さん(91)は被爆時 14 歳。爆風で吹き飛ばされたが、145 センチの柱が壁となって幸い一命をとりとめた。他の従業員はすべて亡くなった。町にはこげて死んでいる人がたくさんいた。「水がほしい」という人が大勢いたので、浦上天主堂に水を汲みに行き、配った。でも飲んだ人は次々死んでいく。水を飲ませたから死んでいったと猪之助さんは思い、生き残ったことを悔やんだ。「原爆は恐ろしく、戦争は愚かだ」と猪之助さん。今でも片耳は完全に聞こえない。

平和のバッジ



最終日、 田上 富久 市長、歴代館長らが列席して、原爆資料館ホールで参加した９組の親子が取材の感想を述べ合った。加奈さんは「被爆地だけでなく、他の地域でも平和活動をし、二度と戦争を起こさないようにしたいと思いました」と発表した。田上市長から平和の使者・ハトが世界にはばたくデザインの「平和活動のバッジ」をもらった。「これをつけて活動してください」と言われた。「長崎を最後の被爆地に」という市長の思いがひしひしと伝わってきた。今日もこのバッジをつけてここにきた。

講演の最後に

「戦争で得られるものは何もない。恨み、憎しみしか残らない。戦争は何なのか。(長崎の)４日間ですごく考えた。意見が違うのは当たり前。共感できなくてもお互いを認め合う、思いやる気持ちがあればむだな争いは起きない」(正樹さん)

「最初は戦争を知るのがこわかった。長崎へ行ってから、二度と戦争をしてはダメ。戦争の歴史を知ることが大切だと思った」(加奈さん)

(会場からの質問に応えて正樹さんは)「戦争に備えるのではない。戦争をしない努力をすることだ。戦争をしないことが日本の強さだ。憲法九条をいじっちゃダメ。一人ひとりが声を挙げていかないと未来はない」　　（文責：竹内 宏行）

中部代表　三重県 鈴鹿市　小河 加奈・正樹 記者

私の住む鈴鹿市は1942(昭和17)年12月1日に軍の要請により市制発足した全国初の「軍都」です。

私は地元の戦争遺跡保存会のメンバーである竹内宏行さん、岩脇彰さん、桐生小百合さんに遺跡を案内してもらいました。

鈴鹿川を境に北は陸軍、南に海軍の遺跡が点在しています。特に「旧北伊勢陸軍飛行場掩体」というコンクリート製で戦闘機が3機入る格納庫があり、国の「登録有形文化財」に指定されています。私はその大きさに圧倒され怖くなりました。

この先、戦争の話を聞けなくても遺跡が残れば戦争を考えることが出来ます。だから戦争遺跡は大切に保存しなくてはと思います。

取材中の小河加奈記者(手前)

戦争遺跡保存の意義

鈴鹿市の旧軍施設の地図

小河さん親子のレポート「ナガサキ・ピース・タイムズ」より

《親子記者事業》

約300の自治体が入る日本非核宣言自治体協議会が2008年から始めた事業。

北海道、東北、関東、中部、近畿、中国、四国、九州、沖縄の９地区から１組ずつ選ばれ、８月９日の長崎を取材して親子新聞「ナガサキ・ピース・タイムズ」を作成する。

小河さん親子は昨年夏、中部の代表として選ばれた。

講演会で話をする小河さん親子

■多くの人から感想文

記念講演参加者は 38 人（会員 22 人・非会員 16 人）。たくさんの人が感想文を書いてくださいました。その一部を紹介します。

〇「最初は戦争を知るのは怖くていやだった」という加奈ちゃんが、直視するのも難しい展示を見学し、悲惨な体験を聞き取りする中で、戦争の歴史を学ぶことが、戦争を回避する力になると気づき、宝の４日間という取材期間を経て、その体験と得た知識を広げるという現在に至ったことに敬意を表します。

〇鈴鹿市に戦争があったということを今回のお話を聴き、写真を見せていただいたことで、より実感しました。戦争は絶対にあってはならない、そして忘れてはならないと強く思います。そのおそろしさ、残酷さを二度とおこさないためにも、小河さん親子のように伝えていくことが大切であると感じました。

〇親子で、とても貴重なすばらしい体験をされたことが伝わりました。“正解” はなくても、考えること。自分なりの “答え” を探すことが大事だと思います。

〇学校教育の中でも『平和』を意識したとりくみが行われるといいですね。戦争に善も悪もない（すべて悪だ）というお父さんの気持ち、今のウクライナを見るにつけ、共感します。加奈さんが会場からの質問にしっかり答えていたのに感心しました。

〇お父さんは質疑に対して、実際に現場に行かないとなかなかわからない、気づきにくい、とおっしゃっていた。大切なことだと思いました。

〇加奈さんが共感した『微力だけど無力じゃない』という言葉。私もネットを通して知り、これからも平和活動を続けていかなくてはと改めて思いました。

〇親子記者の話も詳しく丁寧で感動しました。それ以上に感動したのは、最後のお父さんの話、戦争に対する想い、平和に対する想い、９条、今の政府のやり方、すべてにおいて同感でした。嬉しく思いました。

〇広島や長崎の『被害』の実情と鈴鹿市に残る『加害者』としての真実の両方に目を向けていく必要をあらためて感じました。・・・鈴鹿市から外国へ行った兵士がどのようなことをしたか、関心をもってほしいと思いました。

〇朝鮮の人々も多く被爆した。しかし、被爆で死傷した人々の骨も拾われず放置されたと聞きました。・・・日本の多くの人々は被害者意識は旺盛ですが、東南アジアの人々に加害した責任は意識が希薄です。加害した事実は隠ぺいしたいのでしょう。日本も良い事をしたと戦争をごまかして人心をまどわすのは卑劣です。

最高の花日和のもと
桜の森公園春まつり

桜の森公園春まつりを始めて６年目となる４月１日、これまでにない好天と満開の桜に恵まれ、にぎやかに楽しく開催できました。かつて、ここに鈴鹿海軍航空隊があったことをしのびつつ、平和のありがたさをかみしめました。

タイムトラベルウオーク

桐生小百合さんの案内で、番兵塔、モニュメント『地・天』などがある公園南端の戦争遺跡ゾーンを出発、いまは住宅団地になっている旧格納庫跡を中心に約１時間かけてめぐりました。午前と午後の２回に分けておこない、合わせて 20 数人が参加。生活の空間であることから、団地の中には入らずに道路側から見て、格納庫の大きさを感じてもらいました。

空に舞う遊び

　青空の下、シャボン玉が舞い、思い思いの絵を描いた凧が空に舞いました。「この地が過去にどのような場所であったかを思うと、喜びを感じずにおれませんでした」と指南役の 安井 尚志 さん。

　鈴鹿医療科学大学の学生４人が初めてボランティアに入ってくれ、「よい体験ができました」と喜んでくれました。

ライブ

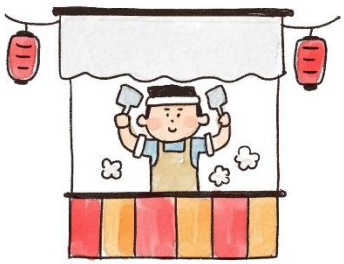
　ヒップホップの「すーぱーはっぴーきっず」と「ぷらむソーダ・RISE」、青井カズノリ、おくだ(Oku-G)しんいち、沖縄を歌う「にらいかない」、三重大アカペラサークル、昌郎が出演。飛び入りもあり、取り仕切った 青井 和徳 さんは「多くの子どもたちから大人まで気持ちよく演ずることができ、それぞれがたくさんの思いを発信できたと思います」。

パネル展示

　鈴鹿市内の戦争遺跡全図、海軍航空隊、海軍工廠、陸軍施設に分けて写真パネルを展示。本田技研工業とイオンモールは鈴鹿海軍工廠、白子中学校と旭が丘小学校は鈴鹿海軍航空隊滑走路、県立石薬師高校と県消防学校は陸軍第一気象連隊などなど、いまの学校、会社にはかつてどんな軍事施設があったか、分かる一覧表を掲げました。

屋台村

　キッチンカー「O元」(からあげ)はじめ、「わか　KARA」(焼き鳥)、「東海醸造」(味噌など)、「アトリエ９」(菓子)、「田中観月堂」(みたらし団子)が出店。大賑わいでした。



◇　　◇　　◇

　当日は、国分町の 本郷 輝夫 さん、永戸 美文 さんに竹トンボの製作や指導にあたっていただきました。また AGF 鈴鹿株式会社からはたくさんの飲み物を提供していただきました。他にも実行委員、当日ボランティア約 50 人が春まつりを支えてくれました。おかげで成功裡に終えることができました。ありがとうございました。　　（文責：竹内 宏行）

「平和を築いていくのは私たちなんだ！」
「二度と戦争が起きない平和な町に！」
鈴鹿市立清和小学校で出前授業

鈴鹿市立清和小学校５・６年生の先生から『桜の森公園(旧鈴鹿海軍航空隊)に遠足に行くので、鈴鹿市についての平和学習をしたい』とご要望があり、４月27日(木)午後、岩脇と桐生が学校へ行き、出前授業をおこないました。

５年生は、遠足のコースに合わせて、戦争中につくられた軍事施設(海軍航空基地、三菱の軍事工場など)を紹介して、鈴鹿海軍航空隊から軍事工場、輸送用飛行場へと拡大していったことを学習しました。

６年生は、５年生の内容に加えて、15年続いた戦争と鈴鹿市の軍事施設をつなげて歴史の学習もして、鈴鹿市は『戦争がつくった全国ではじめての市』であることを見つけました。

両学年ともに、平和を守るために戦争の事実を語り継ぐ大切さと、遠足での見学ポイントを伝えました。

事前に戦争のことを勉強していた両学年、授業中もメモをとりながら真剣に話を聞いてました。

戦時中は、お米を１人何合食べれたのか？

戦争で何人くらい亡くなったのか？

赤紙には何が書いてあったのか？

などの質問も多くあり、戦争の事をしっかりと学んでました。

５月２日(火)の遠足当日、桜の森公園へもお邪魔しました。子どもたちは、出前授業の時に伝えた見学ポイントをよく覚えており、戦争中につくられた滑走路の長さを歩きながら実感したり、公園内にある戦争遺跡やモニュメントを見学したりしていました。

遠足活動をいかして、鈴鹿市の身近な戦争遺跡などから、戦争の悲惨さや平和を語り継ぐ大切さの学習をされた取り組みは、すばらしかったです。　（文責：岩脇　彰・桐生　小百合）

～子どもたちの感想から～

◇本物の番兵塔などを見て、本当にここにパイロットの学校があったことを実感しました。見たことを心にきざもうと思いました。

◇モニュメントなどを見て、絶対に戦争はしたくないと思いました。

◇鈴鹿市を戦争がつくったけど、二度と戦争が起きない平和な町にしていきたい。

◇悲しく辛いことを語り継いで、平和を築いていくのは私たち子孫だと認識しました。

◇戦争はやってはいけないものだと次の世代に伝えるために戦争に関わる建物を残したりすることは、戦争をやらせないようにするために、とても重要であることがわかりました。

◇歩きながら、飛行場の大きさにビックリしました。

◇戦争をやらせないことを後世に伝えるために、ずっとずっと残していきたいと思った。

◇飛行場があったことを示す看板を置いたらいいのにと考えました。

児童だけでなく教師も研修です！
玉垣地区の戦争遺跡を見学

６月７日(水)の午後、鈴鹿市内小中学校教職員の班研修が行われ、鈴鹿市の戦争遺跡を保存・平和利用する市民の会の会員が講師を担当しました。班研修とは、鈴鹿市教育研究会が、市内教職員対象に年間数回、さまざまな内容の班に別れて勉強会を開催。当会は、平和教育班とともに、玉垣地区の戦争遺跡を、岩脇の解説とともにまわりました。戦時中の軍の話に、市内に住んでても知らないことばかりと。今現在も倉庫などに使われ残る貴重な建物があり、持ち主のご理解とご協力で、中も見せていただけたりと、なかなかできない体験をされたみなさんでした。年度内に第二弾も希望されてます。ますますの研修に励んで頂きたいと願います。　　（文責：桐生　小百合）

2023　平和への祈り展

～ 日本赤十字社写真展　救護活動から見たウクライナの今 ～

『平和への祈り展』は、鈴鹿市が 1985(昭和 60)年に公布した『非核平和都市宣言』の趣旨に基づき、戦争による悲劇を繰り返さないよう、また、核兵器の廃絶と平和な世界を願い、2000(平成 12)年から毎年開催。

今年は、～日本赤十字社写真展　救護活動から見たウクライナの今～と題して、7月 22 日(土)10 時～18 時と 23 日(日)10 時～17 時に、イオンモール鈴鹿２階イオンホールにて、入場無料で開催して、ウクライナ人道危機への救護活動写真、戦時中の実物資料などを展示します。

とくに今年は、講演会が復活。『原爆のはなしをきこう』と２日間とも 14 時～14 時 30 分のあいだ会場内にて、日本非核宣言自治体協議会から平和教育に取り組んでいる大学生を講師に迎えて、原爆の歴史などを、わかりやすく話して頂きます。

また、当鈴鹿市の戦争遺跡を保存・平和利用する市民の会も、『2023 平和への祈り展』市民実行委員会として協力参加。【鈴鹿にも戦争があった】コーナーにて、鈴鹿市中心に戦争中の写真パネルを展示、説明もします。ぜひぜひ見に来てくださいね。　　（文責：桐生　小百合）

鈴鹿市の戦争遺跡紹介⑥

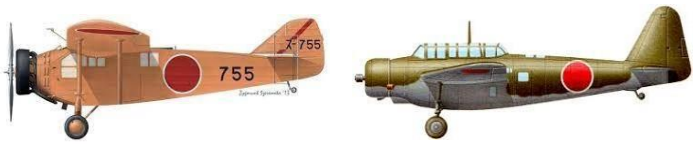
鈴鹿海軍航空隊から三菱・第二海軍航空廠
～戦争とともに　どんどん拡大した海軍施設～

○パイロットの「学校」だった鈴鹿海軍航空隊（1938 年）

鈴鹿海軍航空隊ができたのは1938年。日中戦争が始まったのが1937年。

中国との戦争を始めて、パイロットを増やすことが急務となり、全国に搭乗員養成のための航空隊が作られます。鈴鹿海軍航空隊もその一つでした。日本の戦争と鈴鹿市の歴史がつながっていることがわかります。

搭乗員養成の航空隊ですから実戦用の戦闘機はなく、練習機の九〇式機上作業練習機（通称「赤とんぼ」）と機上作業練習機「白菊」がありました。「赤と白」なので覚えやすいです。



赤とんぼ（左）と白菊（右）

残っている戦争遺跡は正門と番兵塔が代表的ですが、問題点を前号で紹介しました。

○三菱の組立工場と整備工場、第二海軍航空廠（1941 年）

鈴鹿海軍航空隊の開隊から3年間後、1941　年に鈴鹿海軍航空隊の北に三菱の組立工場と整備工場、第二海軍航空廠（鈴鹿支廠）が相次いで作られます。

1941年と言えば、アメリカやイギリス・オランダなど多くの国々とアジア太平洋戦争を始めた年です。

戦争が拡大して、飛行機の増産が急務となり、各地に軍需工場が作られます。ここでも日本の戦争と鈴鹿市がつながっています。

①　三菱の組立工場（三菱重工業鈴鹿工場）

組立工場で作られていたのは、左のような戦闘機や攻撃機でした。これらはもちろん練習機ではなく実戦用です。

三菱はこれらを作ることでお金をもうけます。

「戦争はお金もうけのために始まる」「お金をもうける人は戦争には行かない。関係のない人が戦争に行かされる」これは現在の日本にも通じる大切なことです。

千代崎中学校南側には三菱第一組立工場の基礎が残っています。

②三菱の整備工場（三菱重工業鈴鹿整備工場）

三菱の整備工場では、組立工場で作られた飛行機や、鈴鹿海軍航空隊で使っている「赤とんぼ」、各地から運ばれてきた三菱の飛行機の整備をしました。組立工場と整備工場は道路でつながっていました。飛行機が通るので今よりもずっと広い道路でした。

引き込み線跡（ドン・キホーテ東側）

白子駅から三菱の工場や第二海軍航空廠に引き込み線が伸びていました。軌道跡は道路として残っています。またドン・キホーテ東側には軌道跡にコンクリート建造物も残っています。

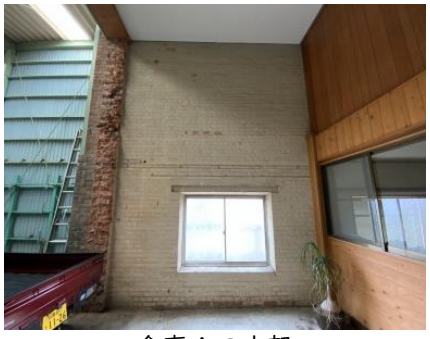
③第二海軍航空廠（第二海軍航空廠鈴鹿補給工場・鈴鹿支廠）

第二海軍航空廠では、三菱組立工場で作った飛行機や、各地から運ばれてきた飛行機に通信機器や機銃を装備したり、エンジンの整備、機体の補修などをしていました。現在の鈴鹿高専の敷地も含まれます。

○運搬・訓練用の飛行場（1942 年）

さらに、翌年の 1942 年には北側に広い飛行場が作られます。三菱から各地に飛行機を運搬したり、逆に各地から三菱へ飛行機を運び込んだりするための飛行場です。軍需工場がたくさんできたことで、より広い飛行場が必要になったのでしょう。運搬する航空隊も常備しました。アジア太平洋戦争によって、一気に軍事施設が増えていることがわかります。この飛行場では三重海軍航空隊（津市香良洲）の予科練生が飛行訓練などに使ったりもしています。

倉庫Ａの外観


倉庫Ａの内部

倉庫Ｂの外観

戦争遺跡は倉庫が2棟残っています。どちらもレンガ建物で、どちらも倉庫と考えられます。現在も住居や倉庫として使われています。

倉庫Ｂの西に数年前までコンクリート製の巨大な水槽がありました。コンクリート水槽の写真も見せて頂きました。現存する間に調査できなかったのが残念です。

倉庫が残る辺りには戦後、暁開拓団が入りました。近くには開拓団を後世に伝える「暁の碑」も建てられています。

消滅したコンクリート水槽

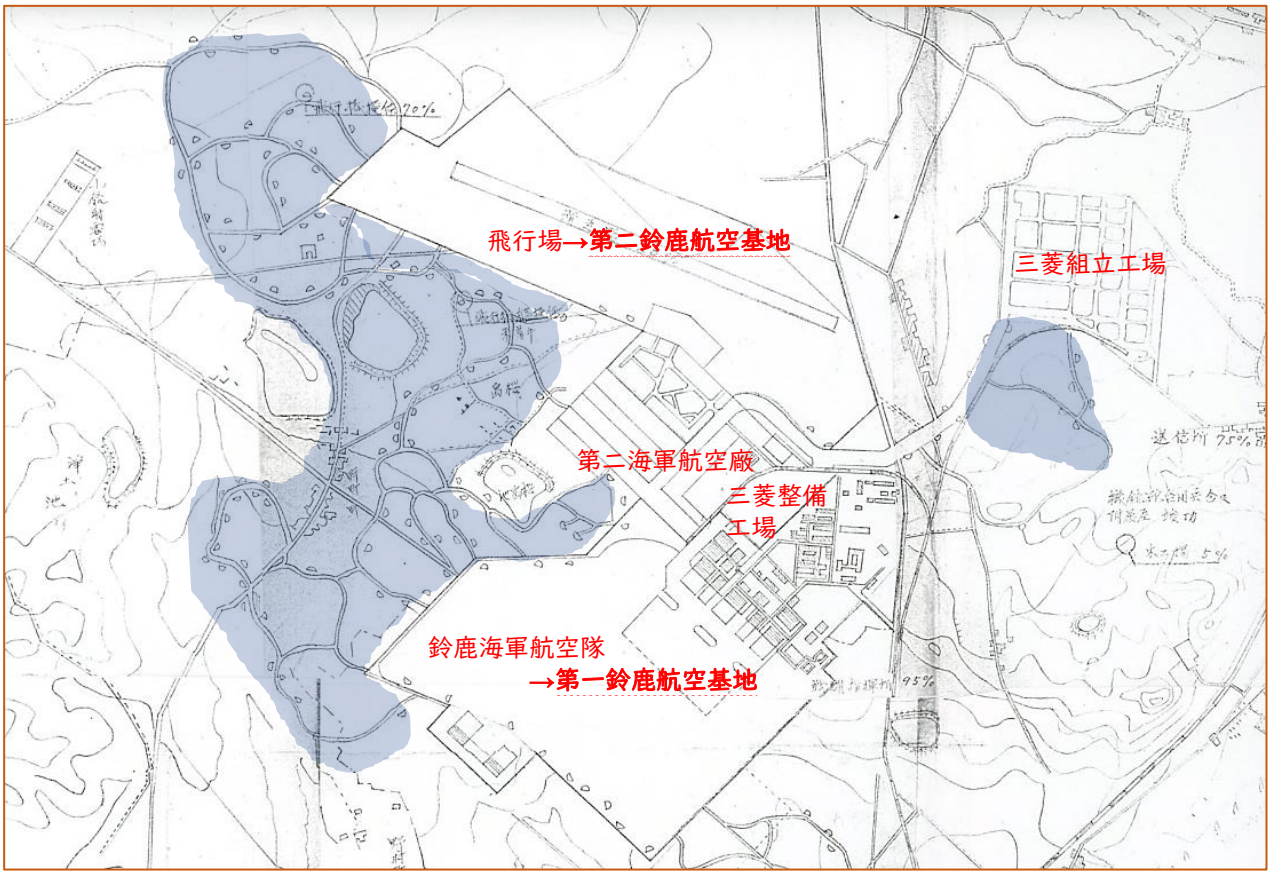
○本土戦特攻基地がつくられる（1945 年）

1945 年になると本土戦が準備されます。本土戦用の特攻用飛行場は、二つ以上の飛行場を誘導路で結び、誘導路沿いに飛行機を隠す掩体（土製やコンクリート製）をたくさん作るようになります。鈴鹿もこのような特攻用飛行場に変貌します。

鈴鹿海軍航空隊は搭乗員養成を中止して、第一鈴鹿航空基地になります。北に作られていた飛行場は第二鈴鹿航空基地になります。そして二つの基地の周囲に誘導路が作られ、それに沿って掩体が作られました。

下の図の色のついた部分が誘導路と掩体の地帯です。軍用地がさらに広がったことがわかります。

ただ、戦争末期の整備なので、誘導路も掩体も未完成で終わりました。第一鈴鹿航空基地や第二鈴鹿航空基地が存在したのはわずか半年ほどでした。



（防衛研究所所蔵の引渡目録より）

この地域では、誘導路や掩体などの戦争遺跡は確認されていません。ただ、誘導路に近い東玉垣町でコンクリート製建造物が残っています。この建造物は内室が3m×3．8m、高さ2．2mの方形をしていて、コンクリートの厚さは 50～60cm あります。

防空壕ではないかと言われていますが、形状から防戦用の機銃陣地の可能性もあります。この近くには水田の中に点々と盛り土や林があるので、掩体などの他の戦争遺跡が見つかる可能性があり、冬季にぜひ踏査をしてみたいと思います。

戦争遺跡が残っていないと思われていた玉垣地区にもまだまだ未確認の戦争遺跡がありそうです。

（文責：岩脇　彰）

コンクリート建造物

おしらせ　いつでもどこでも個別に対応します　～戦争遺跡見学会～

鈴鹿市の戦争遺跡を保存・平和利用する市民の会では、会員及び一般の皆様に市内にある戦争遺跡の見学会を随時開催しています。

① 徒歩または車をご用意ください。
② ご希望の戦争遺跡、集合する時間と場所を決めます。
③ 当会のガイドがご案内します。

参加される人数は何人でも構いません。お一人でも大丈夫です。学校やコミュニティ単位の学習にも対応します。

ご都合のよい日時でご相談下さい。ただし、当会のガイドが対応できない日もありますので、ご了承下さい。日程が重なったときは先着順に対応いたします。

申し込みは竹内（０９０－２７７２－１４７６　ta818hi@mecha.ne.jp）まで

当会のホームページ及び会報の QR コードを作成しました。
お手持ちの携帯電話ならびにスマートフォンで下の QR コードを読み取ってください。

ホームページ　　鈴鹿市の戦争遺跡を保存･平和利用する市民の会　　会　報

▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△
発　行　鈴鹿市の戦争遺跡を保存・平和利用する市民の会
代　表　竹内　宏行・中森　成行
〒510-0254　鈴鹿市寺家 1-2-47
電話　059-388-6508
Mail　ta818hi@mecha.ne.jp
△▼△▼△▼▼△▼△▼△▼△▼△